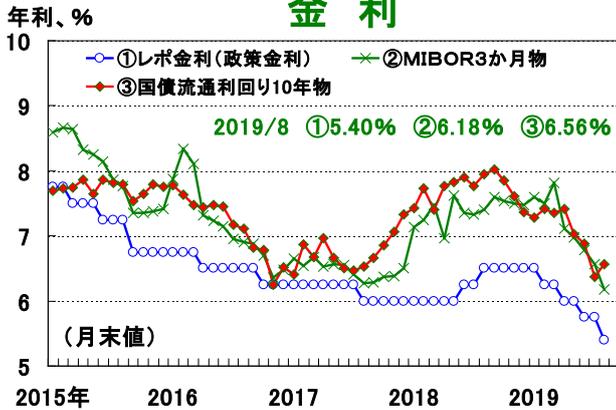


グラフで見るインド経済 2019年9月号(No. 117)

4～6月期の実質GDP(国内総生産)は前年比+5.0%(前期は同+5.8%)と、5四半期連続で減速した。総固定資本形成が前年比+4.0%(前期は同+3.6%)と加速したものの、個人消費(1～3月期:前年比+7.2%→4～6月期:同+3.1%)と政府支出(1～3月期:同+13.1%→4～6月期:同+8.8%)が大幅に減速し、また輸出(1～3月期:同+10.6%→4～6月期:同+5.7%)も5四半期ぶりの低い伸びにとどまった。直近の月次指標に関しても、8月の製造業PMIが51.4と25か月連続で中立水準の50を上回ったものの、2018年5月以来の低水準となった。

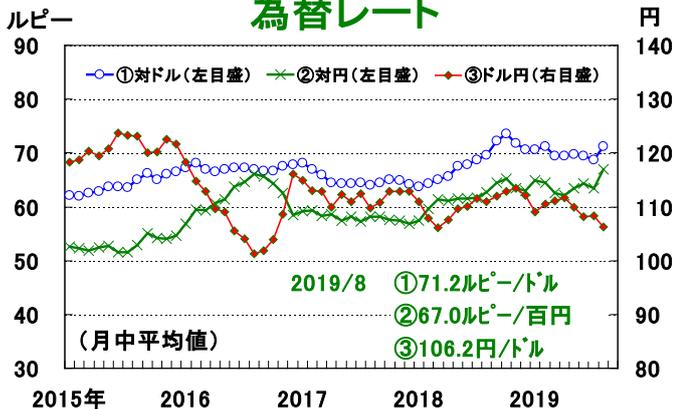
金利



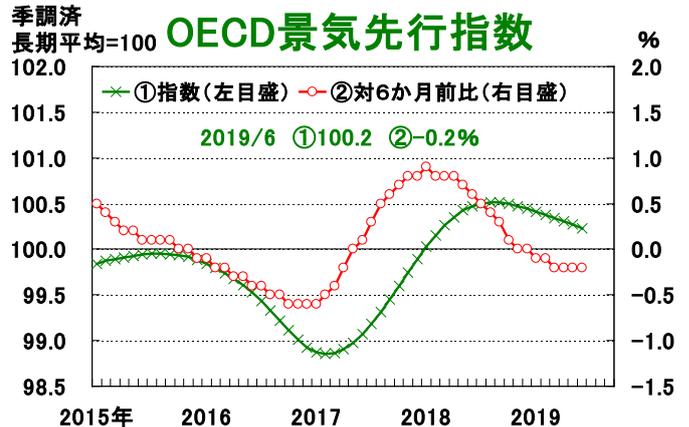
実質GDP成長率



為替レート



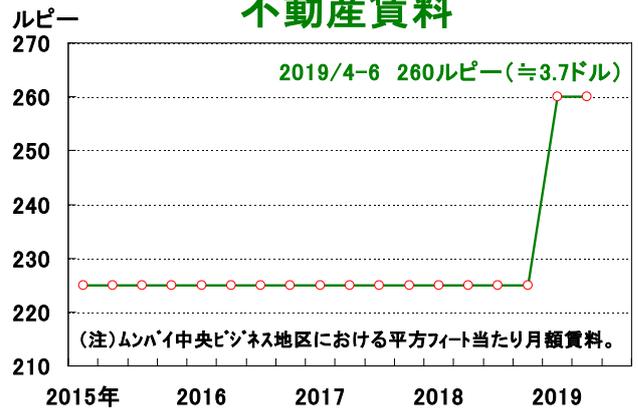
OECD景気先行指数



ムンバイ指数(株価)



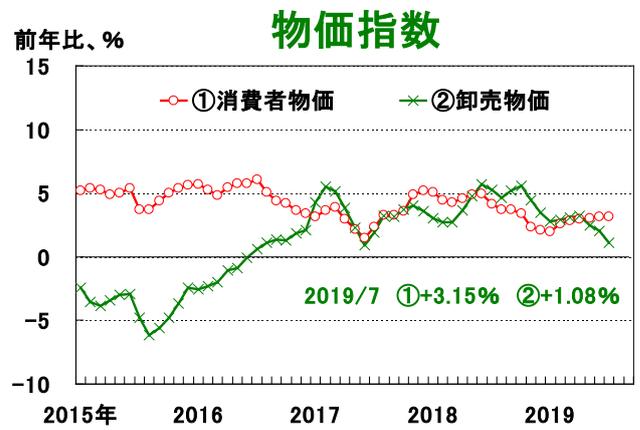
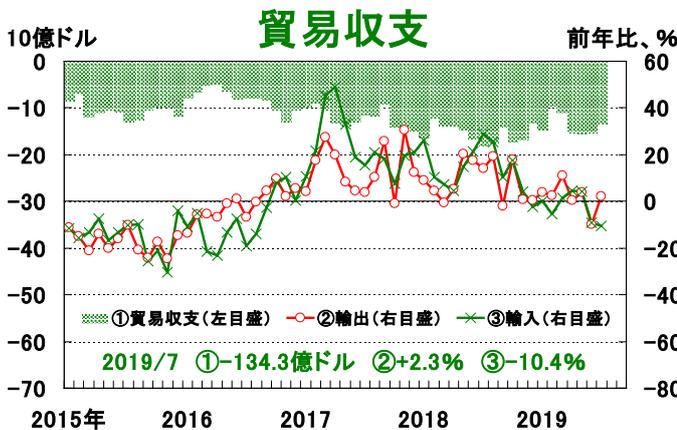
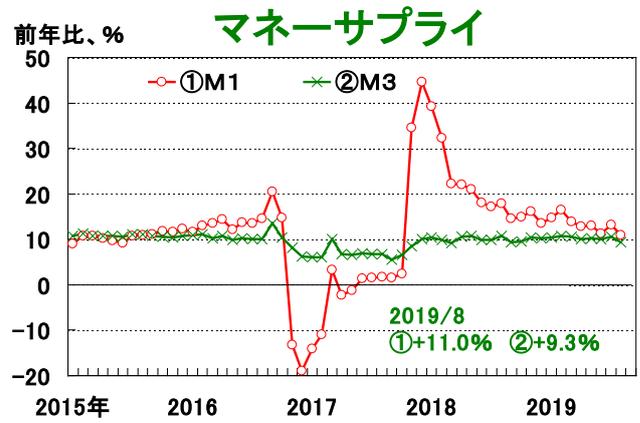
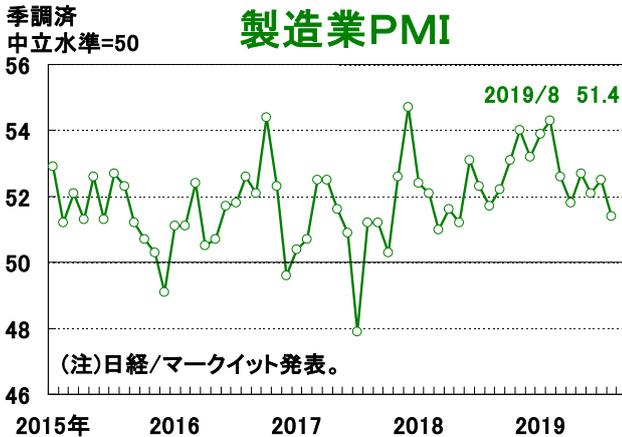
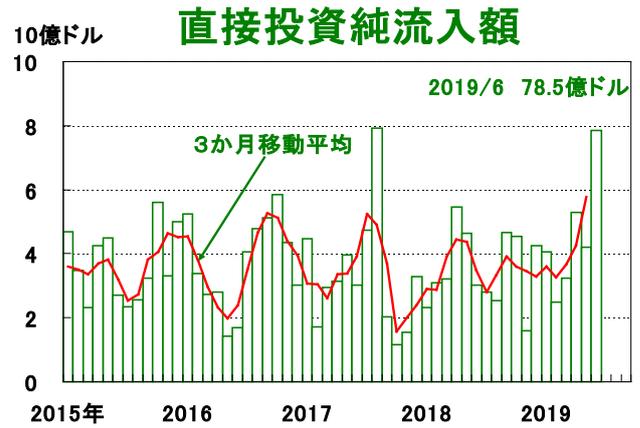
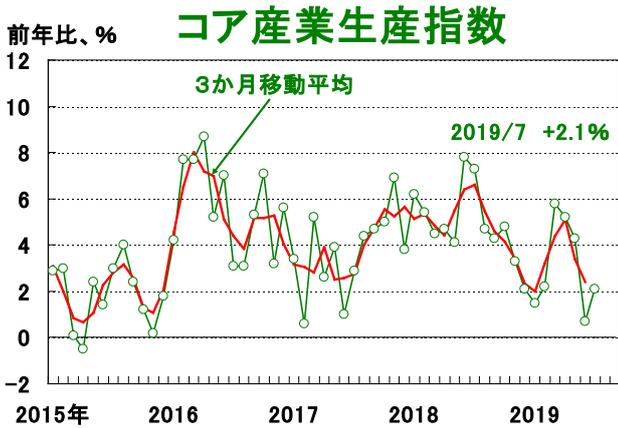
不動産賃料



【今月のトピック:深刻化する水不足問題】今夏は、各地で水不足問題が危機的状況となっている。南部のチェンナイでは干ばつにより幾つかの淡水湖が干上がった。水不足により暴動が発生し、一部の企業は従業員に自宅待機を命じ、経済活動に悪影響が生じた。インドで水不足問題が発生している背景としては、①急速な都市化と水供給力を上回る人口の増加、②気候の温暖化、③水に関わるインフラ整備の遅れ、などが指摘されている。モディ首相は、2024年までに全世帯に水道を整備することを公約しており、水資源の管理監督を所轄する官庁を創設し、水不足問題の対策を急いでいる。

(出所) インド準備銀行、インド統計・計画実施省、OECD、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。



(出所) インド統計・計画実施省、インド商工省・同経済諮問部・同通商情報統計局、インド自動車工業会、インド準備銀行、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。